

企業訪問
資源循環レポート
株式会社 エイゼン

循環型農業の構築
常に改善
食の安全・安心と

株式会社 エイゼン



株式会社 エイゼン

■代表者／代表取締役 永田 喜裕

■所在地／愛知県知多郡武豊町字向陽三丁目1番地

TEL 0569-72-3764 FAX 0569-72-3762

昭和32年「武豊衛生社」を創業、昭和58年「有限会社武豊衛生社」創設。昭和63年愛知県産業廃棄物収集運搬業の許可を取得し、その後地元近隣の事業系一般廃棄物収集・運搬の許可を取得。平成9年「株式会社エイゼン」を設立。平成10年「多賀中間処理工場」設立。平成12年「臨海リサイクル工場」設立後、「臨海工場」、「容器リサイクル工場」、「半田工場」他3工場を開設。平成21年愛知県産業廃棄物処分業の発酵を追加、農林水産省から普通肥料（汚泥発酵肥料）の登録を受ける。同年愛知県飼料販売（エコフィード）を始め、飼料製造、販売の登録を受ける。平成22年永田喜裕氏が代表取締役に就任され、同年アグリ事業（循環型農業）を開始。

今号は創業63年の歴史を持ち、地元の公衆衛生の向上にご尽力されている「株式会社エイゼン」企画開発課 永田稜人氏にお話を伺いました。

※取材は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として電話取材にてご対応いただきました。



(株)エイゼン
企画開発課 永田稜人氏

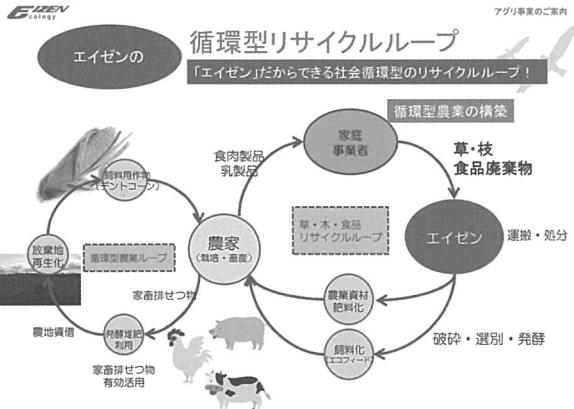
■アグリ事業

事業を始めたきっかけは排出事業者の方から、“廃棄されてしまう製造残渣の有効利用”について相談があったことを機に、同社でも搬入される物が何か地域の創生に貢献でき、資源循環につながらないのかと試行錯誤しアグリ事業に着手。

同事業は「飼料化」、「肥料化」、「農業」に分け、同社が推進する循環型リサイクルループにおいて、コアな役割を担い効率的に資源を活用する地域内循環型リサイクルを構築しています。

◎飼料化

食品会社から搬入された廃棄物は、食品リサイクル工場で選別し、リキッド飼料の原料等（エコフィード）として家畜農家へ納品し、食肉製品等になります。



◎肥料化

飼料とならない食品廃棄物や有機汚泥は里山工場にて、「縦型密閉式発酵機(コンポスト)」で肥料化し、自社管理農地で利用しています。

里山工場は2016年、発電能力最大30kWの太陽光パネルを設置しました。自然エネルギーの利用によりCO₂を削減し、低炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。

◎農業

地元の畜産農家の家畜排泄物肥料と自社肥料を利用して、耕作放棄地を再生させつつ知多半島で約44ha耕作しています。その畑では、飼料用作物のデントコーンを栽培し酪農家様へ納品しています。このループは「循環型農業」です。

■環境方針

一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬・処分、浄化槽の清掃、点検、管工事業務を通じ、安全・安心



私は食品リサイクル工場に勤務し、業務内容は主に食品残渣物の選別、飼料を作り、出荷を担当しています。

一時期コロナ禍によりスーパーやドラッグストアでは食品が売り切れ、店頭に商品が並ばぬことが多々ありましたが、弊社にはリサイクル用に食品が多く搬入され、とてももったいないと感じました。

この状況を打破するためにも、次に生かしていくことが必要ではないかと現場では切実に感じます。

弊社によって新しく生まれ変わり地域への貢献に繋げられると嬉しいですね。

また、搬入される食品残渣物は選別加工をして飼料としてリサイクルを行い、農家様にご提供できるよう循環型社会の構築にいち早く着目して推進しています。

現在社会的にSDGsへの意識が高まっており、業務を通じて貢献していきたいと考えております。



縦型密閉式発酵機
(コンポスト)



食品リサイクル工場内

な地域づくりに貢献し、環境の改善、資源の保全ならびに環境汚染の防止に寄与するため、事業活動のあらゆる面で、地球環境の継続的な向上を図ります。

近年SDGsへの取り組みが社会的にも推進されておりますが、まさに同社の取り組みはSDGsのコンセプトに相通じる開発目標が多いといえます。



本内容の作成にあたり、ご担当者の永田稟人氏に多くの資料のご提供を賜り感謝申し上げます。



私は地球環境に最前線の業種だということに興味を持ち、弊社に入社しました。

今まで産業廃棄物やリサイクルについて家庭ごみと同じような認識でした。

しかし、事務職員として工場の業務を目の当たりにしたとき、現場の作業や更に規格外の食品が家畜の飼料になっていることに驚きました。

業界的に男性の多い職場ですが、今は女性の活躍が期待されていることもあります。弊社では福利厚生が充実しており、育児中の職員に対しては子どもの行事を優先していただけますので無理なく仕事と家庭の両立ができます。

SDGsについては、業務内容からも常に意識の中にはありますので、身近なことから取り組み将来の子どもたちに誇れる環境創りに貢献したいです。